

温室効果ガス排出量検証報告書

グローバルウェーハズ・ジャパン株式会社 御中

1. 検証の対象

一般財団法人日本品質保証機構(以下、「当機構」という。)は、グローバルウェーハズ・ジャパン株式会社が作成した「全社 GHG 排出量算定集計報告書」(以下、「算定報告書」という。)に記載された 2024 年の温室効果ガス(GHG)排出量が、ISO14064-1:2018(JIS Q14064-1:2023)並びに同社により作成された「全社 GHG 排出量算定規程」(以下、「算定ルール」という。)に準拠し、正確に測定、算出されていることについて第三者検証を行った。2024 年とは、2024 年 1 月 1 日～12 月 31 日までの期間をいう。

検証の目的は、「算定報告書」を客観的に評価し、同社の 2024 年の GHG 排出量に係る情報(付属書に示すとおり)の記載の信頼性をより高めることにある。

2. 実施した検証の概要

当機構は、「ISO14064-3:2019(JIS Q14064-1:2023)」に準拠して検証を実施した。本検証業務の対象活動範囲は、直接的な GHG 排出量、購入したエネルギー起源の間接的な GHG 排出量、調達及び出荷の輸送、従業員の出張、通勤による間接的な GHG 排出量、購入した製品等並びに事業から出る廃棄物由来の GHG 排出量、保証水準は「限定的保証水準」、重要性の量的判断基準値は総排出量における 5%とした。また、本検証業務の対象組織範囲は、生産関連 5 拠点(新潟工場(本社含む)、徳山工場、関川工場、小国結晶センター、エム・イー・エム・シー株式会社)及び非生産関連 2 拠点(東京事務所、九州事務所)の国内 7 拠点とした。

検証では現地検証に先立って、「算定ルール」等の確認のために統括機能検証を実施した。その後、サンプリングにより、グローバルウェーハズ・ジャパン株式会社徳山工場及び関川工場の現地検証を行った。現地検証では、各拠点における算定対象範囲並びに活動、排出源及びモニタリングポイントの確認、算定シナリオとアロケーションの確認、算定・集計体制の確認並びに排出量データについて、根拠資料との突き合わせを行った。なお、現地検証の対象とした拠点の決定はグローバルウェーハズ・ジャパン株式会社が行った。

3. 検証の結論

検証の対象とした「算定報告書」の 2024 年の GHG 排出量は付属書のとおりであり、ISO14064-1:2018(JIS Q 14064-1:2023)並びに「算定ルール」に準拠せず、正確に算定されていない事項は発見されなかった。

4. 留意事項

「算定報告書」の作成責任はグローバルウェーハズ・ジャパン株式会社にあり、GHG 排出量検証の結論に関する責任は当機構にある。グローバルウェーハズ・ジャパン株式会社と当機構との間には、特定の利害関係はない。

東京都千代田区神田須田町一丁目 25 番地

一般財団法人日本品質保証機構

理事 浅田 純 男



本証と付属書を合わせてご覧ください。

温室効果ガス排出量検証報告書 [付属書]

グローバルウェーハズ・ジャパン株式会社 御中

カテゴリ及び GHG 排出量

カテゴリ	サブカテゴリ	GHG 排出量 (t-CO ₂ e)
カテゴリ1 直接的な GHG 排出量		
	1.1 定置型燃料燃焼機器による直接排出量	7,442.75
	1.2 移動型燃料燃焼機器による直接排出量	0.00
	1.4 人為的システムにおける一時的な直接排出量	63.44
カテゴリ2 購入したエネルギー起源の間接的な GHG 排出量		
	2.1 供給される電力からの直接排出量(ロケーション基準)	132,978.59
	2.1 供給される電力からの直接排出量(マーケット基準)	123,279.56
	2.2 供給される熱、蒸気など電力以外のエネルギーの直接排出量	2,044.90
カテゴリ3 調達及び出荷の輸送、従業員の出張、通勤による間接的な GHG 排出量		
	3.1 輸送、配送(上流)	2,346.96
	3.2 輸送、配送(下流)	344.07
	3.3 雇用者の通勤	729.59
	3.5 出張	247.21
カテゴリ4 購入した製品等並びに事業から出る廃棄物由来の GHG 排出量		
	4.1 購入した製品・サービス	25,678.00
	4.1 カテゴリ 1,2 に含まれない燃料及びエネルギー活動	22,865.01
	4.3 事業から出る廃棄物	1,332.45

以上